



校長室だより

黒部市立荻生小学校

文責：校長 寺島紀子

令和4年10月14日

第26号

備えよ常に 安全な学校生活をつくるために

先日、本校の児童が休み時間に頭部をコンクリート面にぶつけるという事故がありました。「首から上」ということでかなりヒヤリとしました。手の空いたスタッフが少ない時間帯だったのですが、先月末に見直していた「学校管理下における医療機関対応マニュアル」に沿って保護者への連絡と医療機関への搬送を行いました。関係の皆様には大変なご心配をおかけしました。そしてお世話になりました。ありがとうございました。救急外来で診ていただいた結果、大事には至らなかったようで幸いでしたが、それでも事故にあった本人や保護者の方にはまだまだ不安が残る数日間だと思います。

自然災害等だけでなくこうした学校内での事故も「待ったなし」で突然やってきますが、いついかなるときも落ち着いて対応しなくては、と改めて意識しました。また何より、今回の事故をきっかけに、小さい子供たちにも危険予知の力を付けさせ危険な遊び方はしないなど、休み時間の安全な過ごし方を子供たちと一緒に考えたいと思います。今回事故のあった場所には物理的な安全対策を講じることも考えています。より安全な学校生活となるよう取り組んでいきます。

いろいろな本(お話)にじっくり親しむ秋に

★定番の文学教材がもつ魅力

このところ、どの学年も国語の授業は文学的文章(物語や小説)の学習をしているようです。前号でも取り上げた「やまなし」(6年)のほかにも、「くじらぐも」(1年)、「お手紙」(2年)、「ごんぎつね」(4年)等々…。私は「ああ、もうそういう季節か…」と嬉しく思いながら校内を回っています。

こうした定番の文学教材は、長年教科書に取り上げられ続けているだけあって各学年の子供の感覚に合った魅力的な内容となっています。たとえば音読を通して言葉のまとまりに気付いたり、リズムを楽しみながら皆で声を合わせる面白さを感じたりできます。学年が進むにつれ、より内容に合った朗読へとつなげることもあります(高学年になるとかなり上手な朗読をする子も出てきます)。

また、内容の読み取りに関しては、場面の様子や登場人物の行動を捉えたり、心情(気持ち)を深く考えたりすることが、子供の心を豊かにしていきます。もうすぐ届くはずの手紙を仲良く待ち続ける「かえるくん」と「がまくん」の様子を読み取ったり、ひとりぼっちの「ごん」が「兵十」のためにこっそりつぐないを続ける気持ちをいろいろと想像したりするなど、登場人物に自分を重ね合わせるようにじっくりと思考を巡らすことが、「人間というもの」への理解にもつながっていきます。

★荻っ子は読書好き! これからも本に親しんでね

荻生小では子供たちが自分の「読書バッグ」を教室の机の横に下げています。これがとてもいいなあと、4月にやってきて以来、私は常々思っています。読みたい(読みかけの)本や読書の記録を残すファイルが入っていて、ちょっとした時間にすぐに読書に取り組むことが出来ます。手軽に本に親しむいい方法です。

実は、今年度の全国学力・学習状況調査で「読書が好きですか」の問いに「当てはまる」と答えた荻生小児童の割合が、全国や富山県よりも15ポイント以上(!)高かったのです。荻っ子が読書好きなのが数値的にも証明されました。これは日頃の国語の授業が充実していることや読書タイムの取組、担任や司書さんによる読み聞かせ等のほか、「読書バッグ」の力も大きいと思います。

さて、先日補欠に入った2年教室では、帰りの会に図書係の4人が「本を返す日を延ばします。遅くまで読んでいいので、たくさん本を読んでください」と呼びかけていました。図書室から学級用に借りてきた本を皆に紹介しているようです。読書に親しむ活動がこういうところからも進んでいるのだなと感心しました。



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

子供も大人も、音楽を楽しく学ぶ毎日です♪

音楽会が1週間後に迫り、5・6年生の練習もいっそう熱を帯びてきました。朝や放課後の自主練習のほか、音楽の授業、特に外部講師の大久保先生が来られる日は、皆集中して練習に励んでいます。ボディーパーカッションと鍵盤楽器等がピタリと揃うよう何回も練習しています。先日は帰り際の大久保先生に、指揮担当の鈴木先生がもう一押し of 指導を受けていました。納得がいくまで大久保先生の教えを請う鈴木先生の姿も素敵です。



さて、音楽推進校の本校は、11月の研究集会に向けての研修も頑張っています。先週は授業力向上アドバイザーの宮崎新悟先生を再びお招きし、集会当日の授業に関してアドバイスをいただきました。また、後半は打楽器を用いた授業に関するコツを教えてくださいました。新たな学びがあり、充実した研修となりました。「音を楽しむ」毎日（「音が苦」とはなりませんように）が続きます。

シリーズ「教室におじゃまします」10/12(水)5年理科の巻

5年生の理科のいわゆる「生物」的な分野では、植物の成長の様子について、条件をいろいろコントロールしながら調べていきます。以前、ヘチマのつぼみに袋をかけ、受粉させた花とさせなかった花が区別できるようにしていたようです。今回は教室での確認を簡単に済ませたのち、皆でさっそくその後のヘチマの様子を観察にいきました。

自分たちでかけた袋を丁寧に外し、中の様子を見ました。人工的に受粉させた花だけに実がなり始めていれば実験成功となりますが…、思うほどまだはっきりとした違いが見られないものも多く、子供たちの反応は少し薄めでした。なかなか思うような結果が出ないことは、実際の実験・観察で時々あることです。4年生が育てているほかのヘチマの実について目が行ってしまう子もいました。

いろいろ見渡していた板本先生は、分かりやすい例を見つけたらしく、その周りに子供たちを集めました。「このヘチマは実がならないまま枯れてしまっている。どうして?」「受粉できなかったから…?」と、この実験の基になった予想や仮説を思いだします。そこから「花粉がめしべの先に付くと、めしべのもとが実になること」を確認しました。「ここ、覚えといてね!」と先生。今は手ぶらの子供たちですが、教室でも要復習!ですね。



おまけの<ひとこと>

読書を楽しむとは言っても、読書にも体力を使うものです(笑)。若い頃は長編小説を読み続けた根気が、今はなかなか出てこない…。気になる小説も、読めたら読む!無理はしない! 話題の新書をつい買ってしまってもありますが、気になるところをつまみ食いのように読むこともしばしば。そんな私ですが、新聞小説だけは毎日読み続けるようにしています。我が家の場合は読売新聞の小説2編と北日本新聞の小説1編。3つの小説を毎日少しずつ並行して読んでいます。内容も文章のトーンも全く違う3編ですがそれが面白い。読売新聞の1編はそろそろ終わりに近づいてきているようで、結末が気になっています。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。